

原発回帰に強い危機感

6月8日、大阪市西区うつぼ公園において、「もうやめよう あぶない原発！大集会inおおさか」がおこなわれました。近畿各府県や福井県などから1200名の参加がありました。



はじめに、福井の中嶋哲演氏が主催者あいさつし、関西電力と国による原発延命の画策を批判、大惨事が引き起こされてからでは遅い。関西圏に大きく声を広げ、まずは参院選でも与野党逆転を

実現しようと呼びかけました。続いて各政党、市民団体、労働組合からのアピールがありました。最後には、集会宣言が採択され、先月5月17日に、台湾の全ての原発稼働が停止し、原発ゼロが達成されたことが報告されました。そうした中で、日本政府が「GX脱炭素電源法」を成立させ「原発の最大限活用」方針を打ち出したことは、世界中での原発回帰の背中を押しかねないと、強く危機感が表明されました。集会後は、「老朽原発ただちに廃炉！」「自然エネルギーに転換を」などと訴えながら、難波まで御堂筋をデモ行進しました。支部からは、7分会、執行部含め12名が参加しました。
(書記長 吉馴 真一)

第56期中央労働講座

6月12日～14日の3日間、シーパレスリゾートにて全港湾第56期中央労働講座が開催されました。全国各地から書記長クラス28名が集まり、講師・中央本部6名、総勢34名の参加でした。

今期の労働講座は、書記長は扇で言えば要の部分であり重要であり強化したい。また、書記長同士の横のつながりが必要なので交流を深めて欲しいと趣旨説明がありました。

「全港湾の歴史」(講師：鈴木誠一中央執行委員長)では、全港湾の結成から港湾労働法の制定闘争、全国港湾を結成して産別交渉確立した歴史を学びました。また、現在の日本は特定利用空港・港湾の制定など軍事化が進められていますが、資源がなく食料自給率が低い日本は戦争をしてはいけない

と再認識しました。「産別協定と事前協議制度」(講師：玉田雅也全国港湾書記長)では、港湾産別協定は先輩たちが築いた財産であり、産別協定と事前協議制度は未来へ向けて重要であるとわかりました。また、日港協による産別制度賃金の団交拒否には徹底してたたかわなければなりません。



「組織強化とは、役員とは、組織運営はどうあるべきか」(講師：鈴木龍一中央副執行委員長)では、

組織率の低下は組織の弱体化をさせ、そうすると企業は牙をむいてくるでしょう。そうさせないためにも5つの組織力を強化し、労働運動はもちろんですが、反戦平和・護憲・反原発・選挙など組織外の運動にも参加していかなければと思います。特に選挙運動の重要性と今夏の参議院選挙の森屋隆議員への応援要請がありました。

レクリエーションはオンブローゲームという班対抗の数字当てゲームでした。優勝した班には賞品があるということで頑張りました。賞品は、優勝した班の班長が今期の級長に任命されるといったもので、結果、私が第56期級長を任されました。

交流のほうも地域や職種は様々ですが、同じ役職が多いということもあり深まったと思います。今回学習したことを継承して、伝えていけるようにしたいと思います。
(書記次長 関谷 和人)

だんけつ



発行 大阪市港区築港1-12-27 全日本港湾労働組合関西地方大阪支部 発行責任者 陣内恒治

沖縄平和行進に参加して

私は今回、沖縄平和行進に参加する機会を得ました。これまで戦争の悲惨さや平和の尊さについて学ぶことはありましたが、実際に沖縄の地を歩きながら平和への思いを深めるという体験は、これまでにないほど心に強く残るものでした。

行進の途中、私たちは沖縄戦で多くの命が失われた場所や、今も米軍基地が存在する地域を訪れました。その一つひとつの場所には、過去に起きた出来事と今なお続く問題が重くのしかかっていた。地元の方々のお話を聞きながら歩く中で、「戦争は過去の出来事ではなく、今も続く影響を持っている」ということを強く実感しました。その中でも特に印象的だったのは、ある年配の女性のお話です。幼い頃に沖縄戦を体験し、家族や友人を失い、それでも「戦争を憎むのではなく、二度と繰り返さないように語り続けることが大切」と静かに語る姿に、胸を打たれました。その言葉から、悲しみの中でも希望を持ち、平和を築こうとする強さを感じました。また、全国から集まった参加者と共に歩く中で、平和を願う気持ちは世代や地域を超えてつながっているのだと感じました。共に汗を流しながら「平和を守ろう」という思いを共有することで、目に見えない強い絆が生まれたように思います。

今回の沖縄平和行進を通して私は「平和とは、ただ戦争がない状

態ではない」ということに気づかされました。過去を忘れず、今ある平和を守り、未来に引き継いでいくことだと。そのためには、まず自分自身が正しく知り、考え、行動することが大切なのだ学びました。今後もこの経験を胸に、日々の生活の中でも平和について考え、身近な人と語り合っていきたいと思います。そしていつか、自分の言葉で次の世代にこの思いを伝えられるようになりたいです。

青年部副部長 平澤 悠磨



この時期になると、分会の先輩から「良い経験になるから、一度は参加した方が良い」と聞いていました。分会でも事前学習会を開いてくれましたが、あまり物事に関心を持ってない自分でも、本当に感じるものがあるのだろうかと思ったり不安もありました。1日目は、全国結団式から始まり、三単産結団式がありました。2日目からいよいよ平和行進が

始まり、普天間基地コースを歩きました。冒頭「今年沖縄地方は梅雨入りしないのでは」というほど珍しく強い日差しの中での行進になるので、熱中症に気を付けてほしいとありました。いざ行進をすると仲間のシュプレヒコールで気合いが入り、行進団の中でずっと大きな声を出してシュプレヒコールを叫んでいました。声をずっと出して引っ張っている人の姿を見て、自分も引っ張る側になろうと思いました。予想以上の暑さと日差しで、長い道のりを歩く事がどれだけ過酷かが身に染みてわかりました。足を引きずりながらも歩いている人もいたり、年配の人が歩いている姿を見ると、頑張ろうという気持ちになれたり、地元の方から手を振って頂いたり、幼稚園からは子供たちの声援ですごく感動して本当に平和行進に参加して良かったなと思いました。

沖縄タイムスの記事によれば、沖縄平和行進には2200人が参加したそうです。全国から多くの団体が結集し、皆が同じ目的を持って行進している姿を見て「これが団結か!」と実感しました。実際に参加しないと分からない、言葉では表現し難い事だと思いました。行進が終わり沖縄地本で青年交流会が開かれ、真剣に話す人、笑いをとる人、場の空気を盛り上げる人、色々な人と交流を持って楽しく過ごせました。3日目は、旧海軍豪からひめゆ